

みんなあでつながる！ひろげる！地域のチカラ

プラットふくし

こ う ち 高知県社会福祉協議会広報誌

WHAT'S NPO!!

contents

ボランティア・NPO情報 てをつなGO！ — 6

シニアのちょっといい話 — 8

じゃだむたファーム | 高知県ボウリング連盟

プラットこうち人 山口稚菜さん — 10

高知県社協からのお知らせ — 11

市町村社会福祉協議会ご紹介 — 12

黒潮町社会福祉協議会

2024
8月号

vol.10

WHAT'S NPO!?

昨年、特定非営利活動促進法（いわゆるNPO法）の施行から25周年の節目を迎え、
本年の10月1日には、高知県ボランティア・NPOセンターも開設25周年を迎えます!!
近年、NPOは子どもたちの支援であったり、高齢者や障害者などへの支援、
さらには環境保護の活動などといった社会の様々な場面で欠かせない存在となっています。
また、新年早々に発生した「令和6年能登半島地震」では、
炊き出しや家屋の片付けなど被災者の生活支援や災害からの復旧支援で多数のNPOが活躍しています。
このように「NPO」という言葉を目に触れる機会が増えてはいるものの、
「NPO」のことを実は深く知らない方も多いのではないのでしょうか？
今回の特集では、「NPOって何!?!」という疑問にお答えしながら、
あなたの知らないNPOの活動をお伝えします。

NPOとは、「Non Profit Organization」の略で、民間非営利組織という意味。
このうち、NPO法に基づき高知県などの所轄庁から認証を受けた法人のことを特定非営利活動法人（NPO法人）といいます。
社会的課題のうち行政や企業では対応が難しい部分を積極的に担ったり、新たな手法で課題解決に取り組む組織です。



環境保護

地球温暖化や森林破壊、海洋汚染などの環境問題は日々深刻化しています。
高知県内でも、県土の84%を占める森林を守るための間伐や森の整備、
野生動物や海洋生物の保護などの自然への直接的な活動を行うNPOや、
日々の暮らしの中で、ゴミ削減や公共交通の利用促進などを行うNPOなど、
様々な形で環境保護に取り組むNPOが活動しています。
また、近年では、人と自然が調和して暮らしたための
グリーンツーリズムやエコツーリズムなどの取組も広がっており、
高知の自然の豊かさを県外にも発信する取組が行われています。



災害支援

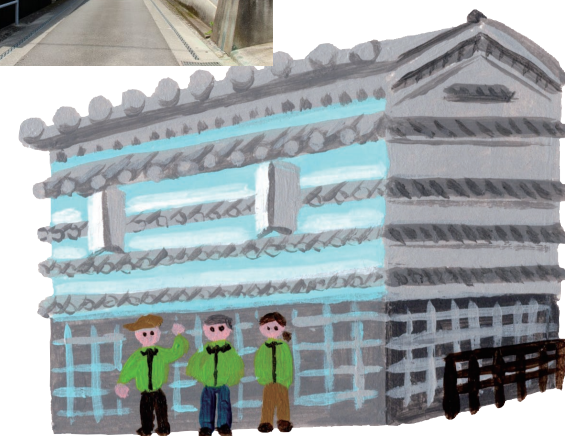
被災地での支援活動では、様々なNPOが活躍しています。
元旦に発生した「令和6年能登半島地震」では
避難所等での炊き出しや要配慮者への支援、救援物資の配送、
被災家屋の後片付けや応急修理など、
被災現場からの多様な支援ニーズに対応するため、
NPOの持つ専門性を活かした様々な支援活動が行われています。
災害支援を目的に平時から防災や人材育成などに取り組む団体もありますが、
平時には福祉活動や環境保護、動物愛護などの活動を行っている団体も、
災害の発生時には、日頃の活動を活かした支援活動を行っています。



子ども・高齢者・障害者支援



子どもや高齢者・障害者に対する福祉制度は多数用意されていますが、
既存の縦割りの制度では対応することができないような方々への
支援活動に取り組むNPOも数多く存在します。
近年では、食事の提供とあわせて家庭や学校以外の居場所を子どもたちに提供する
「子ども食堂」を運営するNPOが特に増加しています。
また、高齢者の家事援助や通院介助、障害者の買い物支援などといった
日常生活の支援を必要とする方たちのサポート活動もNPOが担っています。
NPOが先駆的に取り組んできた活動が、
現在の福祉制度やサービスに反映されたものも少なくありません。



まちづくり

人口減少と高齢化が急速に進展する中で、
中山間地域における住民の活動拠点である
集落活動センターの運営、
歴史的・伝統的な建物が残る街並みの保存、
居住環境の改善や地域の魅力発信、
廃校の利活用や地場産品の開発といった
様々な形でのまちづくり活動に
地域住民が主体となって設立された
NPOが取り組んでいます。
また、スポーツや芸術文化、
伝統文化などを活かした
地域の活性化に向けた
取組なども行われています。

NPO HISTORY

阪神淡路大震災をきっかけとして高まった、ボランティア活動の気運！
高知県内でも様々なボランティア活動グループや
地域課題の解決を行うNPOが増加してきました。
そして、高知県ボランティア・NPOセンターでは、
こうしたボランティア・NPOの活動を支えるため、
普及啓発、相談支援、研修、ネットワークづくり、災害支援などに取り組んできました。

1995.1.17

阪神淡路大震災

兵庫県南部を中心とする被災地の復旧や復興のため、延べ180万人ものボランティアが活躍した、「ボランティア元年」ともいわれる年です。

1998.9

98高知豪雨災害

高知県中央部を中心に被害をもたらしたこの災害では、40日間で延べ3,804人のボランティアが活動しました。県内の様々なボランティア団体や社会福祉協議会が連携してボランティア活動を支えるベースキャンプを運営しました。

1998.10

こうちボランティア・NPO情報システム(ピピネット)を開設

高知県内のボランティアやNPOに関する情報を集約したサイトを開設。マスコットキャラクターのピピちゃんが誕生したのもこのとき。



1998.12.1

特定非営利活動促進法施行

3年前の阪神淡路大震災を契機に、ボランティアをはじめとする市民が行う自由で主体的かつ多様な社会貢献活動を支援することを目的に成立しました。

1999.3

高知県社会貢献活動推進支援条例制定

県内の社会貢献活動を支援するため制定された条例です。社会貢献活動を支援する拠点を整備することが盛り込まれました。

1999.5

高知県で第1号のNPO法人が誕生！

県内第1号のNPO法人として「幡多ふるさとの会」が高知県により認証されました。

1999.10.1

高知県NPOセンター開設

NPOなどが行う社会貢献活動の支援拠点となるセンターが高知県社会福祉協議会に設置されました。2001年より高知県ボランティア・NPOセンターに改称。

2011.3.11

東日本大震災

超広域にわたる被災地を支援するためのボランティアやNPOが活躍しました。高知県内からも多数の社会福祉協議会職員が被災地へと向かい、災害ボランティアセンターの運営に取り組みました。



2002.10-11

よさこい高知国体・よさこいピック高知

県内では49年ぶりに開催された国民体育大会(国体)と障害者スポーツ大会。多数のボランティアが大会の運営にあたり活躍しました。



2001.9

高知西南豪雨災害

土佐清水市と大月町に災害ボランティアセンターを設置。延べ12,000人ものボランティアが活動しました。



2013.11

全国ボランティアフェスティバル開催

全国から約1,500人ものボランティアが県内に集まり、講演やシンポジウム、分科会を通じて新たな交流が生まれ、県内ボランティアの大きな収穫になりました。

2014.7

ナツボラを開始

夏のボランティア体験キャンペーン
高校生や大学生を主な対象としたボランティア活動への参加促進キャンペーンを開始しました。



2018.7

西日本豪雨災害

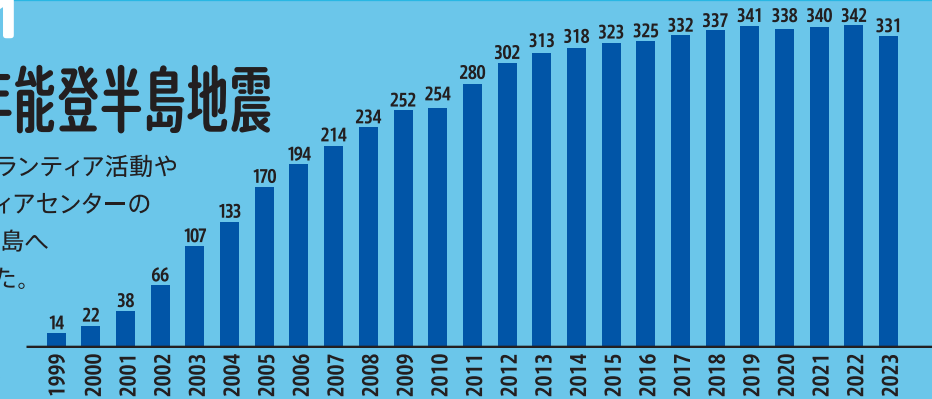
安芸市、宿毛市、本山町、大月町で災害ボランティアセンターを設置し、延べ1,994人ものボランティアが活動しました。

2024.1

令和6年能登半島地震

県内からもボランティア活動や災害ボランティアセンターの支援に能登半島へかけつけました。

NPO法人数の推移



NPO あんなことしてる! こんなことしてる!



地域サポートの会 さわやか高知

特定非営利活動法人

1994年4月に設立され、2023年に設立30周年を迎えた《地域サポートの会さわやか高知》(以下、さわやか高知)。

現在は、高齢や障害により支援が必要な方に対して家事援助、介助・介護、子育て支援、病院・学校・施設などへの送迎などの在宅支援サービス活動のほか、高齢者や障害者の自立支援に向けたサロン活動などを行っています。

高知市に開設しているサロンは、幅広い世代層が地域の中で過ごしやすくなる環境づくりと、地域交流を通じたふれあいの場の創出に取り組んでおり、誰もが気軽に参加でき、地域に欠かせない居場所となっています。

また、大豊町西峯地区では、理事長が所有する田畑で高知大学の学生と一緒に梅や柚子の収穫体験を行っており、高知大学だけでなく高知県立大学など多くの学生を巻き込んだ多世代交流イベントとなっています。

ホームページでは団体の目的や理念はもちろん、さわやか高知のこれまでの活動誌についても知ることができます。高知県のNPOとして数十年にわたって活躍してきた歴史のある団体として、今後も更なる飛躍が期待されます。



〒780-0985 高知市南久万72-14 101号
電話：088-821-0550
HP：https://sawayaka-kochi.com/

NPO 砂浜美術館

特定非営利活動法人

「私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です」。このフレーズを聞いて、ひらひらと浜辺を舞うTシャツを思い浮かべる方は多いのではないのでしょうか。

《NPO砂浜美術館》が黒潮町入野海岸で開催している「Tシャツアート展」は、初夏の風物詩として、地域有数の一大観光イベントとして多くの人々をひきつけています。

また、高知県立土佐西南大規模公園(大方・佐賀地区)の管理運営やその公園を活用したスポーツ合宿や各種大会の誘致活動、ホエールウォッチングをはじめとする地域資源を活かした体験プログラムの開発・受け入れ、町の魅力やできごとを放送するケーブルTVの番組制作など、活動範囲が幅広いのも特徴です。

FacebookやInstagramなどのSNSでは、写真や動画でイベントの様子が詳細に投稿されています。“思わず参加したくなるような気分になる”—NPO砂浜美術館の活動がここまで県内外問わず人気を博している理由はそこに隠されているのではないかと感じました。



〒789-1911 幡多郡黒潮町浮鞭3573-5
電話：0880-43-4915
HP：https://sunabi.com/
Facebook：https://www.facebook.com/seaside.gallery
Instagram：https://www.instagram.com/sunabi_nitari/



Shikoku K-9



土佐町の〈森(もり)〉地域で開催していること、そして、月1回の開催の中で参加した子どもたちに好きなものを〈元気にもりもり〉

食べてもらいたいという思いで名付けられた《元気もりもり食堂》。森地域集落活動センターみんなの森(以下、みんなの森)を活用して子ども食堂が開催されています。

みんなの森はもともと学校があった場所に設けられており、広いグラウンドや遊具も揃っているなど、子どもたちが集いやすい環境が整っていることが大きな強みになっています。

食堂は屋台形式で行われており、カレーや焼きそば、から揚げのほか、わたがしやポップコーン、チュロスなどのデザートも充実しており、子どもたちの喜ぶ姿が思い浮かぶようなメニューばかりです。

今後は、食以外のテーマでも子どもたちの居場所となるよう、季節に合わせたイベントの開催などを検討していく予定とのことです。

〒781-3401 土佐郡土佐町土居119(森地域集落活動センターみんなの森)
電話：0887-72-9707

元気もりもり食堂

《Shikoku K-9》(以下、K-9)は、災害救助犬の育成団体として、2020年6月に活動を開始しました。そもそも「K-9」とは、救助犬・捜索犬・警察犬等の特別な訓練を受け、人間のために働く犬を総称しており、ハンドラーと呼ばれるパートナー訓練士とともに、災害時における救助活動等に従事しています。

K-9は日頃、自治体の防災訓練や消防学校での授業などに協力しているほか、定期的に警察や消防と連携して地震や土砂対応訓練を行っています。また、捜索訓練に欠かせない要救助者役を広く一般からボランティア募集しています。

救助犬の活動は四国内でも高知県が特に活発で、令和6年能登半島地震では高知県警と協力した捜索活動の結果、倒壊した家屋から1名の被災者を発見し、救助救出に成功しています。

K-9では、近い将来発生するとされる南海トラフ巨大地震に向けて対策を講じており、その上でも救助犬の活動をもっと多くの方に知っていただくために今後も訓練を継続的に行っていきたいとのこと。



〒781-3211 高知市土佐山高川351-23
電話：088-850-6525
Facebook
https://www.facebook.com/p/Shikoku-K-9-100083206906858/





シニアの
ちょっといい話
vol.10
つながら、セカンドライフ。シニア世代の生きがいを健康・いきいきと送る。

シニア世代の皆さんが生きがいのあるセカンドライフを送るための参考となるような、県内でいきいきと地域活動がされている皆さんをご紹介します。

ますます広がる地域交流

活動を通じて広がった縁が新たなつながりを生み、高岡中学校美術部がファームの看板を作成してくれることに。今秋には看板の取り付けが予定されており、地域農園活動の益々の発展が期待できる。

参加者募集中！

じゃだむたファームの定期活動日は毎月第1・第3土曜日。年代やお住いを問わずメンバーを募集中です。あなたもこんな素敵な地域農園活動に参加してみませんか？

〈活動の特徴、アピールポイント〉

- 休憩時間のおしゃべり・交流が楽しい
- 参加自由。気軽に参加可能！
- 飛び入り参加も大歓迎！
- 楽しみながら健康になれる
- 収穫した新鮮な野菜が手に入る

歴史の長い長いボウリング連盟

「こうちシニアスポーツ交流大会」や「社会人選手権」など、高知県内におけるボウリング大会の運営を行っているのが『高知県ボウリング連盟』。昭和39年6月設立というから約60年もの長い歴史を持つ団体で、現在の会員数は約150名。下は小学校2年生から上は85歳までと幅広い年齢層だが、約8割はシニア会員だ。

写真は年齢制限がなく誰でも参加することができる「高知県社会人選手権」。この大会では、50歳未満はハンデなし、50歳以上はスコア追加というハンデが設けられており、平等に競い合えるようになっている。

連盟の近藤さんは、「ボウリングはシニアにとってちょうど良い運動量で、退職してからも始めやすい」という。大会に参加している選手もほとんどシニアであった。選手からは、「ボウリングは仲間と一緒に和気あいあいと楽しめる！」「ストライクが出ると、やっぱり気持ちいい！」という声を多く聞いた。

投げるほどにハマるボウリングの奥深さ

良いスコアを取るためのコツが何かと選手の方々に聞いてみると、「オイルのパターンをよむ」のが大事とのこと。

レーンにはオイルが塗られており、その上を、ボールが通るたびにオイルが付き、滑りが良くなっていく。一方でレーン上のオイルは徐々に少なくなり、オイルが少ないところと多い「パターン」がレーン上にできるようになる。

投げる時には、上手に滑りが出るように、このパターンを踏まえた上でピンの位置や立ち位置、ボールの回転の向きなどを複合的に考え、いざ、一投入魂！！

ちなみに、ほとんどの選手がボールの重さや穴の大きさなどを自分に合うよう調整したマイボールを持っている。自分に合うボールに変えると確実にスコアも上がるという。

高知県ボウリング連盟

その奥深さにハマる・・・！！



重さや穴の大きさも全てオリジナルのマイボール

さらなるボウリングの普及と挑戦

連盟のこれからの目標は、小中高生を含む若者世代の会員を増やしなが、ボウリングの普及に取り組んでいくということ。今年は10月に鳥取県で「ねんりんピックはばたけ鳥取2024」が開催されるが、本県代表として連盟から西川さんと竹本さんが出場する。2人に意気込みを聞くと「雰囲気を楽しみながら、狙い通りに投げて結果につなげたい！」「知り合いをつくって楽しみながら入賞したい！」とのことだった。今後の展開が非常に楽しみだ。



高知県代表としてねんりんピックに出場する西川さんと竹本さん



じゃだむたファーム

土佐市

心をつなげる地域農園

耕作放棄地を再生し、地域の元気を取り戻す！

令和3年7月。自分たちのまちは自分たちで考えてみよう、住民が「生活支援体制整備事業」の枠組みの中に位置づけられた「協議体」に集まり、生活支援コーディネーターと協議を重ねた。

そこで「耕作放棄地の増加」が課題として上がり、地域活性化を願うメンバーの一人が「これなら私たちでも取り掛かれそう。」とつぶやくと、通称「7人の侍」と呼ぶシニアを中心とした初期メンバー7名が集まり、耕作放棄地を活用した地域農園事業『じゃだむたファーム』がスタートした。

農園候補地が決定すると、《侍》たちは背丈以上に成長した草木を2か月かけて開墾。副会長の岡本雅道さんは「草が生い茂り、まるでジャングルのような。ここを耕すのは大変だ、とも思ったが、それ以上に面白そうだとワクワクしたことを覚えています。」と当時を振り返りながら笑顔で話してくれた。

同年9月から11月にかけて、じゃがいも、大根、麦、玉ネギを植え付けた。以降もメンバーの希望や意見を聞きながら様々な作物づくりに挑戦している。

活動継続に必要な原動力

土佐市社会福祉協議会の協力もあり、活動開始から丸3年を迎えた現在は高知市から通う小学生親子も加わるなどして総勢20名にまでパワーアップ。

改めて『じゃだむたファーム』の特徴を伺うと、「メンバーに農業のプロはいません。時には作物が思うように育たないこともあります。でも素人同士だからこそ、皆で楽しみながら試行錯誤し、力を合わせて活動できています。」と初期からのメンバーの矢野ゆりさんが話をしてくれた。

高知県再犯防止総合相談窓口の開設について

高知県再犯防止総合相談窓口では、本人や家族を孤立させることなく、抱える悩みや困りごと等についての相談に応じ、適切な支援へと繋げることによって、再犯防止対策に資することを目的としています。

高知県再犯防止総合相談窓口

[受付日] 火曜日、木曜日（祝日及び年末年始12/29～1/4は除く。火・木が祝日の場合は、翌日の平日受付）

[受付時間] 9:00～16:00

[受付方法] 電話、メール ※匿名相談可能。秘密厳守で対応いたします。

[対象] 原則として、高知県内に在住する方で犯罪行為をしてしまった本人、家族、その支援者等

[連絡先] TEL:088-803-8440

E-mail: k-saihanboshi@pippikochi.or.jp

[費用] 無料（利用に伴う通信料金は、相談者の負担になります）

ボランティアガイダンス2024 開催決定！

ボランティアガイダンスとは、〈自分に合ったボランティア活動を見つきたい人〉と〈ボランティアを募集したい団体〉との出会いの場です。気軽にできる活動から専門的な活動まで多種多様なボランティア団体が勢ぞろい。新しい自分を発見できるチャンスです。

[日時] 令和6年11月16日（土）13:30～16:00

[会場] 高知市文化プラザかるぼーと11階 大講義室（高知市九反田2-1）

[参加費] 無料

[主催] 高知県ボランティア・NPOセンター／高知市市民活動サポートセンター

[問い合わせ先] 高知県社会福祉協議会 ボランティア・NPOセンター
TEL:088-850-9100 E-mail: kvnc@pippikochi.or.jp

ふくしフェア2024 今秋開催！！

子どもから大人まで、みんなの身近にある「ふくし」を体験できるイベントをイオンモール高知で開催。当日は「ふくし」に関する様々な体験コーナー、福祉の仕事や介護の相談コーナー、最新の福祉機器等の展示など進化する「ふくし」業界を発信！詳細は、高知県福祉人材センターのホームページにてお知らせします。

[日時] 令和6年10月19日（土）10:00～16:00

[会場] イオンモール高知（高知市秦南町1丁目4-8）

[問い合わせ先] 高知県社会福祉協議会 総合人材センター

TEL:088-844-3511 E-mail: jinzai@pippikochi.or.jp

https://www.fukushi-jinzai.com/

第22回高知ふくし機器展
バリアフリーフェスティバル2024開催！

高知ふくし機器展は、「誰もが生活を快適で、豊かにできる福祉機器を幅広く知ってもらうこと・どこに住んでいても、どんな状態であっても自分らしく生活できる高知県にすること」を目的とし、機器の展示だけでなく、県内外の医療・福祉・教育現場で働く実行委員会スタッフが連携し、生活に還元できるような関わりを意識し実施しています。

[日時] 令和6年11月29日（金）・30日（土）

[会場] 高知県立ふくし交流プラザ全館（高知市朝倉戊375-1）

[問い合わせ先] 高知県社会福祉協議会 いきいきライブ推進課

TEL:088-844-9271 FAX:088-844-9411

E-mail: kaigohukyu@pippikochi.or.jp

高知県社協からのお知らせ

プラット
こうちず
VOL.10

社会福祉法人高知県福祉事業財団
児童養護施設 愛童園

山口稚菜さん
(29)

愛 嬌のある笑顔で職員や子どもたちから「ぐっちゃん!!」と呼ばれ親しまれている山口稚菜さん。高校卒業後、県外の大学へ進学した後、生まれ育った高知県で子ども達と関わりながら働きたい、という強い思いからUターンで地元に戻り就職。

現在は香南市にある児童養護施設愛童園で児童指導員として働いており、今年で8年目を迎える。明るく前向きな性格で、日々子どもたちと積極的に向き合っている。、ブロックリーダーとして活躍している。

子ども一人ひとりの生活に
寄り添った支援を目指して

子どもが好きなことから「子どもと関わる仕事がしたい」と思い、保育士、幼稚園教諭「種免許状」、小学校教諭「種免許状」、特別支援学校教諭「種免許状」まで取得できる兵庫県の大学に進学。在学中は児童心理治療施設で家事のアルバイトをして、子どもたちの生活に密接に関わってきた。そして、保育所や幼稚園、小学校、特別支援学校での実習を通じて、学校の先生のように大人数を相手に教えるのではなく、より子ども一人ひとりの生活に密着した支援ができる仕事に就きたい、と考えるようになったこと、また、児童心理治療施設での経験から家庭環境が厳しい子どもたちの支援ができたという思いが強まり、児童養護施設で働くことを決めた。

「本当にドラマのような、世の中にこんなことがあるのかという衝撃は確かにありました」と山口さん。自身から進んで決めた道だったが、児童養護施設で長年働く中では、厳しい環境下にいる子どもたちをたくさん目の当たりにしてきた。子どもの

家庭復帰を第一に目指して支援を行う中で、復帰に向けた家庭環境の基盤を整えるためには、子どもだけではなく、保護者の支援も含めた家庭全体の支援が必要だと感じるようになった。また、保護者への適切な支援を行うためには福祉制度や社会資源、各機関との連携の知識が必要だと考え、福祉の専門分野を学ぶ決意を固め、通信制の学校に入り直した。園長や他の職員の理解や協力の甲斐もあり、昨年には社会福祉士、今年3月には精神保健福祉士の資格を取得。「働きながら学校に通うのは大変でしたが、子どもたちのためには必要なことだったので」ときっぱり。

何事にも前向きで積極的に突き進む山口さんだが、以前は今のような性格ではなかったという。県外での大学生活や積極的な友人たちの影響を受け、自身も少しずつ変化していき、アルバイト先で「やりたいと思ったことはやらなきゃ!」と思っただけで行動したことは今でも自身の信念へとつながっている。

子供の成長がさらなる学びの意欲に

終始笑顔で話す山口さんに、ここまで頑張ることのできる原動力は何かと尋ねると、「（子どものため）だと答えてくれた。また、長い目で子どもの成長を見守ること、共に成長を振り返ることができます。また、他の職員と子どもの成長を共有できるところにはやりがいを感じますね」と、子どもたちと昼夜を共にし、生活に寄り添った支援を行う児童養護施設ならではのやりがいを教えてくれた。

特に印象に残っていることは、小学校1年生から担当している子どもたちが4年生になった時に行われた「二分の成人式で、



「将来は愛童園の先生になりたい」と子どもが言ってくれたことだそう。自分の子どもとの関わり方は間違っていないか、ということを実感して、素直に嬉しかったです」と話してくれた。今後は取得した資格も生かしながら、地元の社会資源を結びつけ、子どもや保護者支援に役立てていきたいと、更なる資格の取得を目指す意欲を見せている。

近年は専門性の高い養育が必要な子どもの入所が増えてきていることから、今後は、多様な専門職が在籍し、子どものケアを役割分担できるという愛童園ならではの良さを生かし、きめ細やかな子どもへの支援をしていきたいという。そして、子どもたちが施設で過ごす間、どうすれば子どもたちが安心して生活することができるかを考え、関わり続けたい、とも。子どもたちのためだと思えば努力を惜しまず笑顔が絶えない彼女は、これからも子ども達から憧れ、愛される先生になるだろう。

令和6年度
社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険

検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設などに
スケールメリットを活かした割安な保険料で
充実補償をご提供します！

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償（賠償責任保険、動産総合保険等）

① 基本補償（賠償・見舞）

▶ 保険金額		基本補償（A型）		見舞費用付補償（B型）	
賠償事故	身体賠償（1名・1事故）	2億円・10億円	2億円・10億円	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償（1事故）	2,000万円	2,000万円	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償（期間中）	200万円	200万円	200万円	200万円
	うち現金支払限度額（期間中）	20万円	20万円	20万円	20万円
	人格権侵害（期間中）	1,000万円	1,000万円	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失（期間中）	1,000万円	1,000万円	1,000万円	1,000万円
	徘徊時賠償（期間中）	2,000万円	2,000万円	2,000万円	2,000万円
お見舞い等	事故対応特別費用（期間中）	500万円	500万円	500万円	500万円
	被害者対応費用（1名につき）	1事故10万円限度	1事故10万円限度	1事故10万円限度	1事故10万円限度
傷害見舞費用				死亡時 100万円 入院時 1.5～7万円 通院時 1～3.5万円	

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約（賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用慣行賠償責任保険、役員賠償責任保険、サイバー保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険）です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会
（引受幹事）損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
（保険会社）TEL：03(3349)5137
受付時間：平日の9:00～17:00（土日・祝日、年末年始を除きます。）

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL：03(3581)4667
受付時間：平日の9:30～17:30（土日・祝日、年末年始を除きます。）





高知県内の市町村
社会福祉協議会ご紹介⑨

使わないのに捨てられない。 その品物が誰かのために

黒潮町社会福祉協議会

高知県西部に位置する幡多郡の玄関口となる町、黒潮町。

そのまちで、誰もが様々な形で参加できる

「チャリティーショップぐるりん」の取組についてご紹介します。



チャリティーショップについて

チャリティーショップとは、19世紀後半にイギリスで発祥した「慈善団体の資金調達のために、寄付された中古品を販売する小売店舗」のことです。日本でも全国各地で展開され、環境面や経済面、社会面などの機能と可能性を持った地域循環型のツールとして注目されています。

黒潮町では、閉じこもりがちであったり、社会との接点を持ちにくいといった生きづらさを抱えた方の居場所や社会参加の機会が少ないことが課題であり、地域住民の多様な参画を促すことができるよう、黒潮町社協らしいアイデアとして誕生したのが「チャリティーショップぐるりん」（以下、「ぐるりん」）です。

様々な参加のカタチ

「ぐるりん」を実施するにあたり、「寄付品は集まるかな?」「ボランティアに来てくれるかな・・・」「準備にかかる時間や手間の見当がつかない」「閉じこもりがちな方への

声掛けは?」など不安もたくさんありました。そのような不安をよそに、たくさんの寄付品が地域から集まり、忙しい合間を縫って仕分けや会場レイアウトの助言など、たくさんのボランティアの皆さんが協力してくれました。

また、閉じこもりがちであった方が、自らの提案で得意のデザイン力を活かし、「ぐるりん」のロゴマークを作成してくれたり、商売人としての経験を活かした商品の仕分けや接客をしてくれるなど、様々な参加のカタチがここで生まれています。

これまでイベントとして実施してきた「ぐるりん」ですが、現在はイベント型での開催に留まらず常設型としても展開しており、職員をはじめ地域住民の皆さんと協働しながらより良い取り組みになるよう継続しています。

「ぐるりん」を通じたつながりや広がり

「ぐるりん」での売り上げは、購入してくれた方の意向を反映し、子ども食堂や放

課後子ども教室への備品購入、障害児のための団体への助成などに活用されています。

令和6年3月には能登半島地震復興のためのチャリティーとして、「NPO法人しいのみ」と合同企画を行い、地域のボランティア団体や集落活動センターがお寿司や総菜を販売するなど、たくさんの方に来ていただけるよう工夫しながら開催しました。

また、これまで続けてきた「ぐるりん」の取組に共感し、新たにボランティアメンバーとして自主的に協力してくれる方が増えるなど、この取組を通じて、住民の力や想いを再確認することができます。

このように「ぐるりん」は、誰もが持っている強みを活かしながら、誰かのために何かをしたいといった想いを持つ住民同士が、楽しみながらつながれる場となっています。

社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

高知市朝倉戊375-1 県立ふくし交流プラザ内
TEL.088-844-9007 / FAX.088-844-3852
E-mail plaza@pippikochi.or.jp

<https://www.kochiken-shakyo.or.jp/>

ふくし交流プラザへの交通のご案内

【お車でのお越しの方】高知駅より車で約20分、高知ICより車で約30分、伊野ICより車で約15分、高知龍馬空港より車で約50分。
駐車場：普通乗用車で約180台駐車できます
【公共交通機関でお越しの方】最寄りバス停「朝倉第二小学校前」下車すぐ



QUOカードがあたる！ 読者アンケートに ご協力ください！

「プラットふくし」をより良い紙面としていくために、みなさまからのご意見をお待ちしております。ご回答いただいた内容は、今後の企画等の参考とさせていただきますので、右記QRコードより10月31日までにご回答ください。ご協力いただいた方の中から抽選で3名の方にクオカード500円分をプレゼントいたします。当選者の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。



アンケートは
こちらから！

